

美里町

小田の むかばなしと伝説



りましよう

をこぼしながらいいました。
「このみにくいからだをこらんになつてくださ
れ。ねんぶつのご利やくを
知らないくせに、いかにも
知っているような顔をして
あなたをだましたばかりか、
あなたがあせ水ながして手
に入れたたべものをたべ、
はたらきもしないで生きて
きたので、とうとう罰があ
たつてしまいました。とう
ぜんむくいです。わたく
しはもう人間にかえるこ
とはできません。これから
はあなたの家ちくとなつて
根かぎりはたらしましよう」
「とんでもありません。たとえ牛になつたとい



つても、もともとあなたはお坊さま。わたくし
にはとても家畜として使うことはできません」
孫右衛門はあまりのおそ
ろしさに、心もおおるばか
りでした。それでも牛にな
つたお坊さんは、眼になみ
だをうかべながら哀願しま
す。孫右衛門もだんだんか
わいそうになつてきて、と
うとうお坊さんのねがいを
ききれました。
「いや、よくわかりました。
お坊さま。それではわたく
しも、あなたといっしょに、
いっしょうけんめい田を起
し、畠をたがやましよう。そして、一〇〇年
たつたら、あなたのためにお堂をたて

うしかいちょうじゃでんせつ 牛飼長者伝説

旧小牛田町の牛飼地区に、「牛飼長者」という古くからの伝説が残されています。その内容は、「旅のお坊さんが途中で世話になった農家に居座って怠けていたところ、仏罰が当たって牛になってしまった。そこで心を入れ替えて農家の為に一生懸命働いたところ、その農家は長者になることができました」というお話です。地元では「牛飼長者がいたから牛飼という地名になった」「牛飼地区には、牛飼長者の末裔がいる」などの話も伝わっています。

伝説に含まれている「個人が念仏を唱えることで極楽浄土への往生（個人救済）を願う」という仏教の所作は、鎌倉時代以降に発展したものとされており、本伝説の成立も中世以降の可能性が高いと考えられます。

小牛田という地名に「牛」の文字が含まれていることや、「食べてすぐ横になると牛になるよ！」という行儀の悪さを戒める言葉もある一方、牛飼の地名は古く奈良時代の倭名類聚抄わみょうるいじゅしょうに記載のある「小田郡牛甘郷」おだぐんうしかいごうにまで遡る可能性もあり、その関連性については非常に面白いところです。